

## 林業を取り巻く今年一年を振り返って 「天体の植民地」日南が目指すもの

日南町木材生産事業協同組合 組合長 浅川三郎

文豪井上靖が我が町日南を称して「天体の植民地」と言わしめた。その我が町は中国山脈の稜線、島根、岡山、広島の県境、鳥取県の西南端に位置する。実に自然に恵まれ、四季を通じて風雨順時、林業、農業に適していることは言うまでもないが、これらの自然資源が生かしきれていない。これからの環境の時代を迎えて、理想的な文化都市を目指すにふさわしい地域である。未開発であるからこそ魅力的である、この地で生業を営むものとして誇りに思う。

扨て、この地域の将来をかけて地域の資源をどう料理してさばくか、注目に値する。一人の料理人としてとても一人ではさばききれないように思うし、もしそうだとするなら、多くの人の力を結集せねばならない。智慧を如何に出させて目標実現させるかはトップになる人の存在が大切となる。我々のまちは三代に亘って森林の造成に取り組んできた、この森林は個人的には資産価値が減少しているが地域的には夢資源としての価値が増大しつつあり、幸い成熟度が循環社会の形成にうってつけの「法正林」体型となっている。この森林から年間20万m<sup>3</sup>の木材を産出しても、資源は減らないことになっている。この森林の価値観を地場の産業として再生させること、そこに雇用という道筋を作り、若者をどんどんI・Uターンさせる仕組みづくりを、長期戦略として力を投入すべきではないか？  
又、「農」と「林」が合体することにより新エネルギーを実現させ、「農」と「林」の六次産業化を目指せば地上の楽園となる自給自足の出来る町が実現できる。我が町にはその可能性が十二分に秘められた町なのである。あくまでも、新エネルギーは売電にまわすのではなく地域に使ってこそ、その価値が増大するのであって、これからの未来都市づくりの重要なカギとなるであろう。

今行政の仕組みが大き過ぎると思っている。改革すべきは行政改革と官から民への移行をはかる必要ありと考えている。そして、お金の使い方間違いを正すときにある。経済原則に従って金をまわすとすれば、金をタンス貯金にして楽しむ必要はない。回転することが必須であり、活性化のために運用してこそ生きたお金であります。リスクをおそれる行政マンでは新しい政策は生まれてこないと考えます。経営トップの考え方も正しい方向に向けるために、民が一丸となって進みたいものです。

## 今年最後の森林塾を開催しました

毎月第二第四水曜日の夕方、若い林業関係者が集まって、勉強会を行っているが、10月、11月は事業が重なったため、休止状態であった。

さる平成23年12月14日夕方、鳥取県農林総合研究所 林業試験場

森林管理研究室 研究員 熊澤ゆかり氏による「高性能林業機械による効率的な伐出作業システムを考える」と題したセミナーを開催した。参加者は10名余。

氏から(バイオマス利活用関係でも関わっていただいている)、スライドやDVD映像を交えて機械の効率や現場状況による作業方法などのお話があり、参加者からは、現場の実作業との乖離についての意見交換など、非常に実務的な話に発展していた。作業道の設置が大きなポイントになるとの共通認識にもなった。

地域の急峻な地形やこれからの間伐作業場所が急峻な地形の部分に移っていくことなどを考えると、一定の規模の施業団地化が必須になり、また作業の中心となる人材(後継者)育成、特にチェーンソーによる根切り作業が全体の効率を左右することから、これらが大きな課題であり緊急に対応していくべき事とのまとめになった。



